

編集委員会から

デジタル化

日本食品工学会誌の編集委員長を担当して6年がたちました。本誌が私の最後の担当となる24冊目です。“編集委員会から”は、2016年の第17巻第2号から書きはじめ、2017年の第18巻第2号から副題をつけています。以下が、副題のリストです。

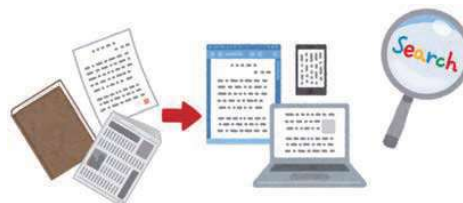
識別子とは？(DOI, e-Rad, ORCID)	18巻2号2017年
著作権とパブリックドメイン	18巻3号2017年
オープンアクセスメジャーナル	18巻4号2017年
冊子体 vs. 電子ジャーナル	19巻1号2018年
掲載料	19巻2号2018年
粗悪学術誌	19巻3号2018年
データジャーナル	19巻4号2018年
Print or Perish	20巻1号2019年
著作権の帰属	20巻2号2019年
日本食品工学会誌の範囲(ストライクゾーン)	20巻3号2019年
スクショ	20巻4号2019年
技術の転用	21巻1号2020年
日本食品工学会20周年を迎えて	22巻2-4号2020年
20周年記念ロス	22巻1号2021年
基礎とイノベーション	22巻2号2021年
デジタル化	22巻3号2021年

今回が22回目の原稿となりますが、これで一段落となります。

いろいろなテーマをとりあげていますが、こうやって副題リストを再度眺めてみると、多くがデジタル化に関連していたことを再認識しました。

本学会の各委員会において学会誌のアンケートを実施したところ、デジタル化に対する多くの要望がありました。もちろん、デジタル化も人により抱くイメージが異なります。

現在、多くの学会では印刷版学会誌の送付をオプション化することにより縮小しています。これはSDGsの観点からも遂行していると思います。そのためには、学会誌のデジタルブック化や検索機能の強化などが必要となります。



これからは裏方として、日本食品工学会の学会誌をはじめとする学術情報のデジタル化にとりくんでいきます。学会誌への論文・記事の投稿およびご意見をお待ちしています。また、とりあげるつもりだった話題については、機会があれば紹介したいと思います。

(山口大学 山本修一)